

【参考資料】

令和 8 年度第 2 回専門部会 グループワーク結果

令和8年度第2回芽室町総合計画審議会評価専門部会 グループA

参加者：嶋野部会長、阿部委員、江口委員、飯島委員、中村委員、平岡委員、
丸委員

欠席：宿谷委員、平谷委員、佐藤委員

○進行方法説明

事務局より説明

○2026年に施策実績評価について

① 上下水道の整備

・質問

なし

・評価（庁内評価D）

妥当 6

妥当ではない 1

阿部委員 Cランク

計画的に水洗化が進んでいる。成果指標の内容が評価しづらい項目であり、上下水道の整備は進んでいる。

・今後の取組みに対する意見

委員

水道事業について住民の理解が足りていないことから、住民が事業を評価していない。施策の課題認識である通りPRの強化をしっかりと行ってほしい。

委員

給水人口を目標としている限りDランク以外の評価が難しい。成果がわかりにくい為、成果指標での給水人口目標自体を見直してほしい。

水道課

成果指標の見直しを進めている。災害への強靱化・経営基盤の強化・持続的な経営が評価できる指標を整理していきたい。

維持管理費用の低減の為にPRという意見も受けているので、ハードだけでなく維持管理費を低減できる情報発信を進めていきたい。

委員

災害復旧で上下水道が最後まで残るので、耐震化を望む。

また、経費の負担割合が人口減少で考えられるが、抑制方法を検討して欲しい。

委員

災害時でも安定供給、早期復旧できる体制の確保をお願いしたい。

② 消防・救急の充実

・質問

委員

消防団員の不足について、個人経営者の息子が多く、少子高齢化で今後も厳しい。

増やすためにどんな取り組みを行っているのか？

消防

職員が多くいる組織（商工会青年部、役場、農協青年部）に声掛けを始めた。

農協青年部、役場では職務と兼任できる周知を行い、役場の新規職員に対しては研修を行った。この中で団員の増加に繋がるかはまだわからないが、積極的に声掛けを行っていく。

消防団として考えている取組みを進めていく。

委員

全国では触れ合う機会を増やすために消防団のユニークな取り組みを行っているが？

消防

芽室では、演習に幼年消防クラブの児童を呼んで、一緒に行進したりしている。家族でその演習を見ている。将来的に子供たちが消防職員や消防団に入ってくれば。

火の取り扱いも教えているので火災予防にもつなげている。

委員

芽室で多い火災要因は？

消防

ごみ焼き。燃やしちゃいけないゴミ等から燃え移る。農家にゴミ焼きしないよう FAX。パトロールして消火。

委員

講習会の人数が減っているが、役場主催の訓練を除くと増えている？

消防

今年と去年は消防団も連携した訓練となっており、消防が町民に対して行っている。R6年度は消防が町内会単位で行った。救急講習は回数と人数が増えているので、役場に頼りきりにならず消防独自でも声かけて、町内会から呼び込まなければという反省。

委員

概要書にも疾病の内訳ついてない？

消防

書いている文言が年報のデータの元となる。概要書のようなものもあるが、打ち込んだら自動的に項目に振り分けられる。病院から来る書類で大まかな病状はわかるがデータ化はしていない。

委員

熱中症について町独自に知らせるシステムを作ったらいいのでは？

消防

町のHPに熱中症の情報をアップできれば。広域のサイトにはあるが、独自の取組みという面ではしてない。熱中症については夏の救急講習で話すぐらいなので、検討したい。

・評価（庁内評価 C）

妥当 7

・取組に対しての意見

委員

- ① 高齢者の自宅に防災啓発をしてほしい。
- ② 地震で火事が発生すると、今の避難所計画では非難しきれない、地震の場合どういう原因で火事になるかとその啓発をしてほしい。

消防

防災講話等で啓発していきたい。独居老人は女性部で回っているが、その先は町の協力が必要になるので、できることから進めていきたい。高齢者部署と連携してそこから広めていきたい。

委員

3の施策の達成状況②で新規事業の目標達成は可能となっているが、2025年の実績が

らみると、特に①③の数値が程遠く感じる。

ここで書かれている達成できる根拠的なものを知りたい、注力するもの等。

消防

指標に記載しているのは、実際の数値と乖離していると声をもらっているので、次期計画で見直しを進めているところ。

取組として住警器のちらしや横断幕、のぼりだったのが、今年度は住警器の実物パネル新設置。今年からは新しいものと団員で触れる機会を増やしていく。防火講習は消防の努力不足。PR や勧誘が難しい。

防火講習はどちらかというと役場に近くアプローチが難しく、役場の企画に乗せてもらう感じになっている。

町内会から言ってもらえば、いつでも消防が講習にいけるので、この部分では努力不足と考える。

委員

発生したら対応できる意識ではなく、発生前に予防する取り組みを率先して進めてほしい。

③ 便利な行政サービス

・質問

委員

成果指標も5%向上しており、こういった要因が向上に繋がったのか？

総務課

これだというのが難しいが、役場の中だけでなく実行するのではなく、色々な意見を町民に頂き現場に反映という繰り返し、町民の行政に対する信頼に繋がっているのでは。こういった場はありがたい。

・評価（庁内評価 C）

妥当 7

委員

新庁舎になってすぐはカウンターがわかりにくい意見も見られたが、シミュレーションしながら努力を続けているのが満足度の対応に繋がっている。

・今後の取組みについて

委員

行政 DX を実感したが、窓口対応が第一印象になるので、接遇向上の教育は続けていた

だきたい。

委員

- ① 業務を行っていく中で、一人一人の気づきで小さいことから改善されていくことが、大事と考える。
- ② デジタル化の話があるが、社会に負けないスピードで進めていただきたい。

委員

前回の時期総策定でも伝えたが、成果指標が住民意識調査から抽出という回答で致し方ないが、窓口対応に対しての回答は来庁して実際にサービスを受けた割合がどれぐらいいたのかが引かかる。

対応がよくなっている事実はあるが、窓口対応後にアンケートをとる等して改善点を見つけていく、積極的にとることで無駄な仕事が増えるリスクもあるが、タイムリーな情報を取った方がいいのではないかとその方が素の意見をとれる。

いい意味で役場改善に繋がるため、検討して欲しい。

委員

数名の対応の悪い職員がいた場合でも、役場全体が悪い評価になってしまう。接遇の研修も大事だが、不適切と判断した対応を認識させる指導も必要と考える。

④ 住民自治の実現と地域の活力の維持

・質問

委員

事前質問の回について、内容別のところにぶら下げたとあるがどこの施策に行ったか？

都市経営

町有財産の財産管理の施策にぶら下げている。

4-2-1 有効な土地利用の促進 6期で完全移行する。

・評価

妥当7

委員

3か年の町内会活性化事業補助金の実績をつくっていることに評価

・今後の取組み

委員

高齢者人口が増えているが、高齢女性に特化した施策を考えてほしい。

政策

高齢者支援の施策への意見として受け取っていいか？

委員

住民自治の町内会に対してのそういった支援があるのかを伺いたい。

魅力

町内会の加入率が下がっているが、町内会加入率の維持や高齢者向けの足の確保を行っているが、有事の時に特に一人暮らしの高齢者は要援護者台帳で常に把握している。

町内会や地域担当職員のありかた、防災は外せない課題だと考えている。そういった方への支援も考えていきたい。男性女性を分けて考えていないが、避難所等で区別した対応が必要なので意見としてもらいたい。

委員

女性が活動するというイメージで聞いた。高齢女性の一人が増えてきた。

女性のリーダーがいないので要望として付け加える。

魅力

町全体での高齢者支援の意見として頂く。

委員

町内会に情報を発信しても行き渡らない可能性が出てくる。高齢者は自分で情報を取りに行くのは難しい。また、高齢で役員できないから抜ける人も増えてきた。町内会と行政を繋ぐのが難しくなっているので、繋ぐ方法を今から考えておかないと手遅れになってしまうので検討して欲しい。

委員

地域自治について、町内会自体も変わらなければならない。役員の負担軽減、加入によるメリット、加入しやすい町内会への転換が必要である。

町内会を考える座談会を開催して欲しい。意見を集めてもらいたい。

役場で企画して欲しい。

魅力

連合会や地域担当職員との兼ね合いもあるので、意見として承り、審議会で意見のあったということで考えていきたい。

委員

町内会関係者で集まると、考え方が固定されている為、町内会ごとに考えは違うが、色々な人の意見や考え方をとったほうが良い。

委員

町内会によって構成が違く、なかなかまとまらないと考える。どのくらいかかるかわからないが、取組は継続してもらいたい。連合会以外のきっかけがほしい。町内会個々が近づいてくるようなものにするよう続けていくしかないと考える。

委員

住民自治は必要不可欠であり、行政は後方、側面でなく自らの積極的なかわりや施策を行うべきである。

⑤ 効果的・効率的な行政運営

・質問

委員

公共面積は下回る数値を目標であっているか？

都市

面積を縮減していくのが目標である。策定が平成 27 年当時 20 万 4 千平米だったが。令和 16 年までに 10 パーセント縮減が目標。主に公共施設の面積の縮小が目標。

委員

成果指標の5について、残りの82.3%は活用されていないのか？

活用されていないものはどのくらい遊休資産があるのか？また、どう活用していくか？

都市

普通財産と行政財産と分けている。

普通財産は行政で使用していないもの。廃校校舎やグラウンド。今使われていない所。町が貸したり売ったりできる。維持管理経費が掛かってくるので、ほかの人に利活用してもらう。394 筆が普通財産の土地で抱えている。そのうち 50 筆活用した。

委員

土地と付随する建物が固定資産で残っている理解でいいのか？それとも土地だけか？

都市

建物を壊せずに残っているものもある。解体に費用がかかってくるため。

・評価

妥当 7

・今後の取組みについて

委員

今後の予測の中で PDCA を次のサイクルに反映させる取組を推進と記載があるが、今までは次の取組みに表れてこなかったと捉えた。PDCA そのものの見直しが必要ではないか？

政策

評価は専門部会や審議会でできていると認識している。事業の見直しに繋がっているかは足りないかもしれない。現在、自治体全体が財政難であり、事業の見直しに着手する必要がある。課題認識にも繋がってくるが、R7年の事務事業を洗い出し、R7.8.9年で見極める取り組み中である。事業見直しをしていきたい。

委員

人口減少が迫ってきていると感じる。住民に対し、状況共有をわかりやすく行ってほしい。町民の現状認識の解像度を上げる手段が欲しい。みんなに意見を聞くのと同時に情報共有のわかりやすさを考えてほしい。

政策

事業の見直しにあたり、情報をありのまま町民に伝えることで、対話が進み町の状況を知ってもらい、やめたい事業をやめることができる可能性もある。公表した財政状況は単年度であり、長期的に見たり、全国的に見て古い部分等の載せ方等も検討させていただきたい。

委員

公園の利活用関係で芽室公園の項目で話したことで、元ソフトボールの球場で現在活用されていないところが、公園の土地で他に利活用できないと言われた。草が生えたりしているがそこを利活用できないのか？ほんとに多用途に活用できないのか？

都市

公園用地は行政財産で公園のために使う土地になっている。
条例で位置づけされている可能性がある。行政財産から一般財産になっている可能性もなくはない。活用という観点では可能性は0ではない。

政策

公園のストックマネジメント計画が R7 年度に完成した中で話したと予想されるが、その計画の中で、そこはできないとなったかもしれないが、計画が進む中で使わないとなれば改正して活用はできるかもしれない。

委員

職員の残業時間について気になっている。推移を知りたい。

佐々木課長

H30 年をピークに右肩下がり。

委員

総合計画のための仕事が職員の負担になっているかが心配である。業務が多いのであれば全体的にバランスを考えなければと思った。
引き続き効率的に進めてほしい。

委員

住民が不便を感じない DX を進めるべきであり、習熟機関とサポートをしっかり強化すべきである。

会議終了

令和 8 年度第 2 回芽室町総合計画審議会評価専門部会（B グループ）議事録

令和 8 年 8 月 7 日（水）18:30～19:30

芽室町役場 地下会議室 5・6

■出席委員（7 名）

津本委員、今田委員、片桐委員、川合委員、佐藤委員、西川委員、野崎委員

■欠席委員（3 名）

黒田委員、

（書面提出有り）櫻田委員、村山委員

健全な財政運営

○質問

委員

滞納税額や人数はどうか。

松田課長

滞納額は国保を除き 1,900 万円程度である。

委員

経常収支比率、実質交際費比率の部分で、庁舎建設やプール建設など、建物について触れているが、経費の減価償却について、定率法や定額法あるがどのように処理しているか。

中田補佐

町は単年で歳入がどれだけあって、歳出がどれだけあるかで行っている。

したがって、減価償却の考え方が無いものである。

しかし、複式簿記に直したものを作成しており、ホームページで公表している。

有澤課長

貸借対照表や、損益計算書の方が分かりやすい人が多いと思う。現在国も複式簿記にできないかと議論が始まっている。

経常経費が大きくなる理由としては、負担の平準化を行っているためである。

負担の平準化とは、例えば施設等を建築した場合、単年の税金で支払うと、後年時に使用する方は負担が無いことになってしまう。そういったことが無いように平準化して支払うことである。

これにより、後年度の経常経費が増えてしまう。

○評価

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員、委員 D

○今後の取り組みに対する意見

委員

5施策の課題認識に「事業の取捨選択が必要であり、真に住民にとって必要な事業を見極め実施」とあるが、見極めるについて基準や、取捨選択の基準を住民に説明、公開を行わなければ、住民理解も得られないし、住民も事業要望ができないと考える。

委員

将来負担比率が 66%とかなり低いことから、将来にわたって投資するものについては、超長期で調達するなどの工夫をしてはどうか。

担い手育成と農業の応援団づくり

○質問

委員

担い手部会とはどういったものか。

大浦係長

芽室町農協、指導農業士、役場、農業委員会で組織している。

新規就農の相談を行う組織である。

問い合わせはあるが、現状、農地が無いことが多く、あきらめる方が多い。

それでも就農を希望する方の相談を行うために組織された。

○評価

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 C成果指標①③が伸びていることから判断。

○今後の取り組みに対する意見

委員

担い手部会の件について、将来に向けて管外の第3者などとのマッチングも必要ではないか。今後も農業者が規模拡大していくとは限らないため、就農希望のマッチングなども積極的に行っていくといいのではないか。

大浦係長

今後担い手不足は、発生する可能性はある。

北海道の担い手センターとも協力しながら進めていきたい。

委員

学校の給食について、地産地消等進めていると思うが、触れていない理由は。

河井

別施策である学校教育の充実で触れているため、載せていない。

農業生産性の向上と経営基盤支援

○質問

委員

施策の方針、意図の欄に「本町農業・農畜産物の理解を促進し」や「地元農畜産物のPRと

販路拡大」について、具体的にどういったことを行ったのか。

大浦係長

P Rについては、魅力創造課と取り組む部分が多い。近年は墨田区との連携を行っている。他には、全国食育大会などのイベントも参加し、販路拡大につながっているもの考える。

委員

消費者協会の調査部で地元の農畜産物の加工しているもの調べている。芽室の食材でどういったものが作られ販売しているか。2年後の生活展で紹介したいと考えている。

昔、東京で生活していて音更町に住んだ方がいて、音更町は知らなかったが、芽室町は知っているという方がいた。

東京の地下鉄で、めむろ産マチルダの広告が多くあって知ってくれた人が居た。宣伝を頑張ったと思う。

消費者協会も地産地消で、まずは芽室町の人に知ってもらおうと取り組んでいる。

○評価

委員 C

委員 C

委員 C

委員 C

委員 C

委員 C

委員、委員 C

委員 D

農業産出額が増加しているが、単価が上がっているだけと感じている。

農業振興センターの営農指導で上がったとは判断できない。

なので、維持と判断した。

○今後の取り組みに対する意見

委員

生産利益を成果指標にする検討をお願いしたい。

委員

芽室町のアンテナショップはあるか。

委員

芽室町農協としてアンテナショップ現状はない。

昔はおこなったが撤退した経緯がある。ホクレンの施設にアンテナショップはあるが、北海道のＪＡを期間ごとに順番で行うものはある。

農地・土地改良施設等の整備・充実

○質問

委員

農業用水施設、土地改良施設などの日々の修繕依頼の通報システムとはどういったものか。

佐々木係長

公式ＬＩＮＥを用いた通報システムである。封筒など印刷し、周知を図っている。

○評価

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員　Ｃ

委員、委員　Ｃ

○今後の取り組みに対する意見

なし

地域林業の推進

委員

森林環境譲与税とはどういったものか。

大浦係長

森林の維持管理に使う作業道や、木材を使用した物品などに使えるものである。

委員

所有者所在不明について、法律等で整備されたはずだが。

大浦係長

登記について進んでいる印象である。

○評価

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員 D

委員、委員 D

委員 C

町民への森林イベント成果指標高水準であることから判断。

○今後の取り組みに対する意見

委員

5 施策の課題認識にある、公園木製遊具や建具について芽室公園に建築する新施設にぜひ使ってほしい。

特にビジターセンターなどにも使っていただきたい。

大浦係長

必要に応じて使っていきたい。